

領域	専門分野Ⅱ 老年看護学	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	老年看護学方法論Ⅰ	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	光瀬 楠生子 嬉野医療センター 看護師 院内講師 嬉野医療センター 歯科衛生士 藤谷 順三 薬院リハビリテーションセンター 健康運動指導士 音辻 友利恵 嬉野医療センター 看護師 吉田 美夏 嬉野医療センター 看護師 原田 彩 嬉野医療センター 看護師 橋口 彩夏 嬉野医療センター 看護師 久原 佳身 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師14年				
科目目標： 1. 高齢者に特有な看護技術を身につけることができる 2. 高齢者におこってくる身体的変化とその特徴について食生活、排泄、運動、休息、清潔、コミュニケーションについて理解できる 3. 身体的変化や疾患、環境などの影響を考慮し、生活リズムを回復するためのアセスメントや自立拡大に向けたアセスメントが理解できる 4. ケアを必要とする人への援助方法が理解できる 5. ケアを提供するときの方法、注意点が理解できる					
授業概要： 高齢者看護の特性を捉え、機能の変化や高齢者の生活形態・様式に応じた援助の必要性を理解し、技術を提供できる能力を習得する。又、高齢者に多い疾患の特徴を踏まえた援助について講義を通して学ぶ。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1	1. 老年看護の看護技術の特徴 高齢者に適用する看護技術の活用と特徴	講義	久原 佳身		
2~3	2. 高齢者の生活機能を整える援助：食事・食生活 1) 高齢者における食生活の意義 2) 加齢に伴う摂食・嚥下機能の変化 3) 食生活のアセスメントと援助 4) 摂食嚥下機能に応じた高齢者への食事介助(演習)	講義・演習	光瀬楠生子		
4	5) 口腔機能と栄養状態の改善 ①口腔アセスメント ②口腔機能の改善 ③口腔の清潔ケア ④乾燥した口腔内の食事体験	演習	院内講師		

	⑤咽頭貯留体験と口腔ケア		
5～6	3. 高齢者の生活機能を整える援助：排泄 1) 高齢者の尊厳を守る排泄ケア 2) 排泄リズムの把握と生活の調整	講義	久原 佳身
7～8	3) 排泄のための自助具の活用 (ポータブルトイレ、尿器、オムツ)	演習	久原 佳身
9	4. 高齢者の生活機能を整える援助：活動 1) 生活の基本となる日常生活動作 ・歩行、移動、姿勢保持 2) フレイルの予防 ・運動機能向上を目的とした介入 ・サルコペニア予防	講義・演習	藤谷 順三
10	5. 高齢者の生活機能を整える援助：生活リズム 1) 高齢者に特徴的な変調 2) 生活リズムのアセスメントと援助	講義	音辻友利恵
11	6. 高齢者の生活機能を整える援助：清潔 1) 高齢者にとっての清潔の意義 2) 加齢による皮膚機能の変化 3) 清潔のアセスメントと援助	講義・演習	吉田 美夏
12～13	7. 高齢者の生活機能を整える援助：コミュニケーション 1) 高齢者とのコミュニケーションとかかわり方の原則 2) コミュニケーション能力のアセスメント 3) 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法	講義	原田 彩
14～15	7. 高齢者に特有の症状と看護 1) 老年症候群（かゆみ、脱水、抑うつ、せん妄） 2) 生活への影響とアセスメント 8. 高齢者の主な疾患と看護 ・骨粗鬆症	講義	橋口 彩夏
	試験		

テキスト

1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院
2. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

参考文献

1. 改訂第3版老年医学テキスト 社団法人日本老年医学会
2. 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 医学書院

評価方法

筆記試験（別紙評価計画参照）

領域	専門分野Ⅱ 老年看護学	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	老年看護学方法論Ⅱ	単位(時間)	2単位(45時間)		
講師名 所属	梅崎 紗耶香 嬉野医療センター 看護師 南川 栄子 嬉野医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 森 法道 嬉野医療センター 神経内科医師 池田 貴子 嬉野医療センター 認知症看護認定看護師 織田 昇子 祐愛会 ケアコートゆうあい 副部長 久原 佳身 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師14年				

科目目標：

1. 加齢・障害の程度に応じた老年看護の実際を理解できる
2. 高齢者の健康障害の特徴と症状・検査・治療に対する援助を理解できる
3. 認知機能が低下した高齢者（認知症高齢者）の看護を理解できる
4. 保健医療福祉施設の特徴と、入所している高齢者の看護を理解できる
5. エンドオブライフ期にある高齢者の看護を通し、臨死期における看護の必要性や家族のニーズ、グリーフケアの必要性を理解できる
6. 健康障害をもった老年期の人に対する健康問題を総合的にアセスメントし、高齢者に応じた看護の実施・評価ができる

授業概要：加齢に伴う身体的、精神的機能の変化が、老年期の疾病の発病と経過に及ぼす影響を考え、老年期に多い疾病の病態、症状、診断、治療、看護の視点と予防を重視した看護の基本を学ぶ。又、施設に入所する高齢者の看護の特徴について学ぶ。

授業計画

回数	講義内容	講義形式	担当講師
1～3	1. 治療を必要とする高齢者の看護 1) 手術療法を受ける高齢者の看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 3) 検査を受ける高齢者の看護 4) 外来を受診する高齢者の看護	講義	梅崎 紗耶香
4～5	2. 高齢者に多い障害に対する援助 1) 褥瘡 2) スキン-ケア	講義・演習	南川 栄子
6	3. 認知症高齢者の治療 1) 認知症とは 2) 認知症の症状と要因 3) 認知症の診断	講義	森 法道

回数	講義内容	講義形式	担当講師
7	3. 認知症高齢者の治療 4) 認知症の治療	講義	院内講師
8～9	5) 認知症高齢者への看護 (1) 認知症ケアの原則と対応の実際 (2) 認知症高齢者への援助の実際 (3) 家族との関係、家族の心理状態	講義	池田 貴子
10	4. 高齢者を取り巻く保健医療福祉施設 1) 療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護 (1) 介護療養型医療施設の特徴と看護 (2) 介護老人保健施設の特徴と看護 (3) 介護老人福祉施設の特徴と看護 2) 高齢者の居宅サービスにおける看護 (1) 認知症対応型共同生活介護 (認知症高齢者グループホーム) の特徴と看護 (2) 小規模多機能型居宅介護の特徴と看護	講義	織田 昇子
11	5. 保健医療福祉施設に入所している高齢者の理解 1) 生活の場としての環境のあり方 2) 施設の特徴に応じた支援活動	講義	織田 昇子
12～16	6. エンドオブライフケア 1) 高齢者の死 2) 高齢者の死のとらえ方 3) 死の迎え方の意向 4) 死の受容への看護 5) 臨死期の看護 6) 高齢者の死亡場所の変化 7) 死を看取る家族への援助 8) 看取りを終えた家族への看護 9) エンジェルケアについて	講義・演習	久原 佳身
17～18	7. 生活機能に障害のある高齢者の看護 1) 老年看護における展開における考え方	講義・演習	久原 佳身
19～22	2) 事例演習 (1) 情報収集の視点 (2) 分析の視点 (3) 介入計画立案 (4) 援助の実際 (5) 評価	講義・演習	久原 佳身
23	試験		

テキスト

1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院
2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

参考文献

1. 改訂第3版 老年医学テキスト 社団法人日本老年医学会
2. 生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版株式会社
3. 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 医学書院

評価方法

筆記試験 レポート (別紙評価計画参照)

領域	専門分野Ⅱ 老年看護学	対象学年	2年	開講時期	後期						
科目	老年看護学実習Ⅰ	単位(時間)	2単位(90時間)								
講師名	久原 佳身										
所属	嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師14年										
<p>実習目的・目標：</p> <p>加齢により諸機能の変化をきたしている高齢者を対象に、老年期にある対象の特徴、対象のもつ健康上の問題を踏まえ、対象の生活機能にあった援助を理解する。高齢者の特徴をふまえ、個々に応じた対象の理解、健康問題の把握、健康の保持増進や予防的な働きかけの方法、高齢者を取り巻く制度、社会資源の実際について学ぶ。また、認知機能低下により生活機能に及ぼす影響を理解し、対象に応じたコミュニケーションのとり方、高齢者の自尊心を擁護した援助の実際や、認知機能の低下があっても「その人らしさ」を大切にされた看護の実際を学ぶ。あらゆる健康の段階にある高齢者が、それぞれの生活の場で、「生きがい」を見つけ、「自立」に向けた支援を受け、「その人らしい」生活を送ることの意味を考え、高齢者のQOLに注目し、生活を豊かにすることを学ぶ。</p>											
<p>授業概要：</p> <p>あらゆる場で生活する高齢者とのコミュニケーションや交流を通して、高齢者の生活史、生き方や健康観、価値観を理解し、生きがいや楽しみの意味を考え、安全・安楽・自立を考慮し、対象の生活機能に応じた支援の実際を学ぶ。高齢者の日常生活に触れながら老年期にある対象の理解を深めていく。</p> <p>また、認知機能低下により生活機能に及ぼす影響を理解し、対象に応じたコミュニケーションのとり方、高齢者の自尊心を擁護した援助の実際や、認知機能の低下があっても「その人らしさ」を大切にされた支援の実際を学ぶ。</p> <p>老人福祉センター、宅老所、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、認知症対応型グループホーム、地域密着型特定施設、小規模多機能ホームの役割を学ぶ。</p>											
<p>授業計画</p> <p>1. 実習目標および実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的側面の特徴を知り、個人差が大きいことを理解できる。</td> <td>(1) 加齢に伴う身体的・精神的・社会的の特徴 (2) 老性自覚 (3) 高齢者が自立した生活を送るための工夫 (4) 余暇時間の過ごし方・生きがい (5) 加齢に伴う諸機能の変化が日常生活に及ぼす影響 (6) 認知症症状の理解 (7) その人らしさの理解</td> </tr> <tr> <td>2) 老年期の加齢現象が日常生活行動に及ぼす影響を理解できる。</td> <td>(1) 高齢者が自立した生活をするための支援体制 (2) 高齢者のQOLの維持・向上を目指した生活支援の重要性 (3) 認知症症状が日常生活に及ぼす影響</td> </tr> </tbody> </table>						実習目標	実習内容	1) 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的側面の特徴を知り、個人差が大きいことを理解できる。	(1) 加齢に伴う身体的・精神的・社会的の特徴 (2) 老性自覚 (3) 高齢者が自立した生活を送るための工夫 (4) 余暇時間の過ごし方・生きがい (5) 加齢に伴う諸機能の変化が日常生活に及ぼす影響 (6) 認知症症状の理解 (7) その人らしさの理解	2) 老年期の加齢現象が日常生活行動に及ぼす影響を理解できる。	(1) 高齢者が自立した生活をするための支援体制 (2) 高齢者のQOLの維持・向上を目指した生活支援の重要性 (3) 認知症症状が日常生活に及ぼす影響
実習目標	実習内容										
1) 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的側面の特徴を知り、個人差が大きいことを理解できる。	(1) 加齢に伴う身体的・精神的・社会的の特徴 (2) 老性自覚 (3) 高齢者が自立した生活を送るための工夫 (4) 余暇時間の過ごし方・生きがい (5) 加齢に伴う諸機能の変化が日常生活に及ぼす影響 (6) 認知症症状の理解 (7) その人らしさの理解										
2) 老年期の加齢現象が日常生活行動に及ぼす影響を理解できる。	(1) 高齢者が自立した生活をするための支援体制 (2) 高齢者のQOLの維持・向上を目指した生活支援の重要性 (3) 認知症症状が日常生活に及ぼす影響										

実習目標	実習内容
3) 老年期にある対象の健康の保持・増進、予防的な働きかけを理解し、生活機能の維持・拡大に向けた援助方法について理解できる。	(1) 高齢者の健康管理 (2) レクリエーションの目的・意義 (3) 残存機能の維持・拡大をねらった生活援助
4) 高齢者の健康状態には個人差があることを踏まえ、対象の生活機能に応じた、個別性のある支援について理解できる。	(1) 高齢者の QOL の維持・向上を目指した生活支援の実際 (2) その人らしい生活の支援の実際
5) 老年期にある対象の特徴をふまえ、尊重した態度で関わることができる。	(1) 共感的、受容的態度で相手を尊重した言葉使い (2) 生活史や価値観を尊重した態度 (3) 高齢者の人権権利と権利擁護
6) 高齢者を取りまく保健・医療・福祉チームの役割と連携について理解できる。	(1) 老人福祉センターおよび宅老所の役割 (2) 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設の役割と機能 (3) 高齢者をとりまく多職種の役割・チーム連携

詳細は、実習要項参照

2. 実習施設

嬉野市老人福祉センター

宅幼老所さくらさくら または 宅老所ひなた または 宅老所しきなみ

特別養護老人ホームうれしの または 介護老人保健施設朋寿苑

社会医療法人祐愛会 ゆうあいビレッジ

履修条件

履修規程第3条3

二 専門分野の単位履修ができていない学科目がある場合、関係する実習の履修ができないことがある。

参考文献

1. 改訂第3版老年医学テキスト 社団法人老年医学会
2. フレイル超高齢社会における最重要課題と予防戦略 医歯薬出版株式会社
3. サルコペニアと運動エビデンスと実践 医歯薬出版株式会社
4. AptyCare 福祉文化シリーズ①介護度別高齢者の生活レクリエーション 黎明書房
5. AptyCare 福祉文化シリーズ②高齢者のための生活場面別レクリエーション 黎明書房
6. 高齢者のための筋力トレーニング 黎明書房
7. 完全図解新しい認知症ケア医療編 講談社
8. 完全図解新しい認知症ケア介護編 講談社
9. ペコロスの母に会いに行く 西日本新聞社
10. 嬉野市 HP 高齢者福祉サービス・介護支援について

<http://www.city.uresihino.lg.jp/shimin/37/161.html>

11. 嬉野市 HP 人口統計について

http://www.city.ureshino.lg.jp/_3606/_20276.html

評価方法

実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。(実習要項・実習要領・評価基準参照)

領域	専門分野Ⅱ 老年看護学	対象学年	3年	開講時期	前期				
科目	老年看護学実習Ⅱ	単位(時間)	2単位 (90時間)						
講師名	久原 佳身								
所属	嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師14年								
<p>実習目的・目標：</p> <p>老年看護学実習Ⅱでは、生活援助技術実習、看護過程実習、成人看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰでの学びを踏まえて、健康に障害のある高齢者とその家族を対象に、老年期にある対象の特徴、個別の条件を踏まえ、統合的に理解し、看護が実践できることを目的としている。</p> <p>高齢者の心身の特性を踏まえた医療ニーズへの対応、療養生活の場の多様化による多職種連携、変化する社会環境への適応能力、高齢者自身と家族の健やかな老いと死に寄り添いながら高齢者の生活に与える影響を考えその人らしい人生を全うするための看護が必要である。高齢者の価値観や生きてきた過程をとらえ、対象の望む生活を考えながら、対象の持てる力(強み)を発揮できるような自立に向けての支援を行うことが必要である。終生にわたって高齢者本人の充足と発達を促す支援、そして平和な死を迎えるための支援など高齢者のQOLを考慮した看護が必要である。</p> <p>また、高齢者の生活機能に応じた退院後の生活を見据えた活用可能な社会資源の査定など、家族や多職種との連携、及び継続看護の実際について理解する。</p>									
<p>授業概要：</p> <p>加齢と疾病により病院において療養生活を送る高齢者を受け持ち、看護過程を展開するなかで、その人らしい自立した生活を支援するために必要な看護を実践する能力を養う。</p> <p>具体的には、加齢や疾患のみならず高齢者の生活背景や価値観などが生活機能に与える影響にも着目し、個別的な生活習慣や価値観などを尊重しつつ持てる力を活かす看護を実践する。</p> <p>また、高齢者の療養生活を支える各種施設や関係職種との連携や看護師の役割について考える。</p> <p>受け持ち患者は、後期高齢者とし、脳血管障害(脳梗塞、脳出血)、パーキンソン病、大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、腰椎圧迫骨折、糖尿病の疾患を持つ患者とする。残りの人生を障害を抱えながら生活を再構築したり、生涯疾病コントロールをしながらその人らしい人生を送ることができるよう高齢者の望む生活に向けて目標を明確にしながらか看護を実践していく。</p>									
<p>授業計画</p> <p>1. 実習目標および実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 健康障害をもつ高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を総合的に理解できる。</td> <td>(1) 加齢による身体機能の変化と評価指標 (2) 高齢者の精神的・社会的特徴 (3) 老年期の疾患の特徴から考えられる身体的・精神的・社会的側面への影響</td> </tr> </tbody> </table>						実習目標	実習内容	1) 健康障害をもつ高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を総合的に理解できる。	(1) 加齢による身体機能の変化と評価指標 (2) 高齢者の精神的・社会的特徴 (3) 老年期の疾患の特徴から考えられる身体的・精神的・社会的側面への影響
実習目標	実習内容								
1) 健康障害をもつ高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を総合的に理解できる。	(1) 加齢による身体機能の変化と評価指標 (2) 高齢者の精神的・社会的特徴 (3) 老年期の疾患の特徴から考えられる身体的・精神的・社会的側面への影響								

実習目標	実習内容
2) 老年期における健康障害の特徴をふまえ、QOLの維持・向上を目指す個別性のある看護を実践できる。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 患者の機能障害に応じた、日常生活の維持・拡大、依存をしながらの日常生活行動の適応に向けた援助 (2) 高齢者の生活習慣を考慮した援助 (3) 対象の強みを生かした介入 (4) 患者の個別性を生かした、自立に向けての到達可能な目標の設定 (5) 患者の日々の変化を捉えた、自立に向けての看護 (6) 老年期にある対象者の、治療・処置・検査に伴う侵襲（成人期との違い）
3) 高齢者の今後の生活の成り行きを見通し、継続看護の必要性を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 退院後の生活を考えた家族や他職種との連携 (2) 継続看護の必要性 (3) 社会資源活用の実際
4) 老年期にある対象を尊重した、人間関係を築くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 患者の感覚機能や認知機能に応じたコミュニケーション (2) コミュニケーション意欲が失われない関わり (3) 高齢者の価値観を尊重した関わり (4) 高齢者の思いを尊重した援助
5) 老年期にある対象の看護実践を通して老年観を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 高齢者の時代背景をふまえた、対象の生活史、価値観 (2) 高齢者の生活習慣に配慮した援助の方法 (3) 高齢者の強みをいかした援助
6) 受け持ち患者の看護を通して医療チームの一員として看護実践できる。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 高齢者と家族の多様なニーズの把握 (2) 多職種との機能回復の進捗やゴールの明確化と共有 (3) 多職種との連携の実際 (4) 退院（転院）調整カンファレンスでの調整 (5) チームで看護を行うことの意味

詳細は、実習要項参照

2. 実習施設

嬉野医療センター 5 東病棟、7 東病棟、7 西病棟

履修条件

履修規程第 3 条 3

- 二 専門分野の単位履修ができていない学科目がある場合、関係する実習の履修ができないことがある。
- 五 老年看護学実習Ⅰについて単位修得の認定を受けていないものは、老年看護学実習Ⅱを履修できない。

参考文献

1. 改訂第3版老年医学テキスト 社団法人老年医学会
2. 高齢者基準値ハンドブック 中外医学社
3. 老人のリハビリテーション 医学書院
4. ベッドサイドの高齢者の診かた 南山堂
5. フレイル 超高齢社会における最重要課題と予防戦略 医歯薬出版株式会社
6. サルコペニアと運動 エビデンスと実践 医歯薬出版株式会社
7. パーソン・センタードな視点から進める急性期病院で治療を受ける認知症高齢者のケア
入院時から退院後の地域連携まで 日本看護協会出版会

評価方法

実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。(実習要項・実習要領・評価基準参照)